

## 国語科

# 生徒一人一人が言語の主體的な使い手となる、 社会生活に生きて働く言語能力の育成

～全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた指導方法等の工夫・改善～

附属函館中学校 長谷川 美栄子, 高橋 亜矢, 佐山 将

## I はじめに

今年4月、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象とした、全国学力・学習状況調査が4年ぶりに実施された。今回の調査で、新学習指導要領に基づいた全国的な児童生徒の学力や学習状況が初めて明らかとなり、今後、調査結果を活用した教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立及び学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等が一層求められるものと思われる。

このような中、今年度、本校国語科では、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業の指定を受け、研究に取り組むこととなった。この事業は、新学習指導要領の実施状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、新学習指導要領の趣旨等の実現のための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究を行い、その成果を全国に普及し、各学校での指導改善の参考に供することを目的としているものである。本校の研究の重点の1つである「質の高い教育を保证するための検証改善サイクル(PDCAのサイクルマネジメント)の整備」の具現化として、全国学力・学習状況調査の結果分析等を活用して、生徒の実態を把握するとともに知識・技能を活用する力を育む学習指導の工夫・改善について研究を進めた。

## II 教科研究仮説

国語科で身に付ける力は、「中学校学習指導要領解説国語編」で、「言語能力は、社会生活に生きて働くよう、一人一人の生徒が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力として育成することが大切である」<sup>1)</sup>とあるように、各教科等の言語活動を充実させる言語能力として不可欠なものである。

教育課程研究指定校事業の指定を受けた本年度の研究では、指定された国語科の内容のうち、

- ・言語活動を通じた指導において、期待される言語活動の姿を想定して評価規準を設定し、具体的な活動状況に即して適切な評価を行う方法の研究
- ・全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた、指導方法等の工夫改善に関する研究（「全国学力・学習状況調査4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ」の内容を踏まえること）

について取り組むこととなり、研究仮説を

全国学力・学習状況調査問題を活用するとともに、各教科の授業観察等を通して生徒の状況を把握し、指導方法の工夫・改善に生かすことにより、生徒に社会生活に生きて働く言語能力を身に付けさせることができるだろう。

とした。そして、仮説に基づく具体的な研究内容として、

- ① 国語科と各教科等の言語活動の関連を明確にした年間指導計画の工夫
- ② 全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた生徒の実態把握
- ③ ②を踏まえた指導方法等の工夫・改善
- ④ 授業観察等による各教科等の言語活動における国語科で身に付けた言語能力の習得・活用状況の把握
- ⑤ ④を踏まえた指導方法等の工夫・改善
- ⑥ 全国学力・学習状況調査の「主として『活用』に関する問題」を参考に作成したペーパーテストによる評価方法の工夫・改善

を行うこととした。

### Ⅲ 仮説に基づく実践例①～国語科及び各教科等の言語活動の関連を明確にした年間指導計画の工夫

このことについては、下記の年間指導計画の抜粋のように、国語科の年間指導計画に各教科等の言語活動との関連を明記し、国語科で身に付けた言語能力を各教科等の言語活動に活用したり、習得の状況を把握したりすることができるよう教育課程を工夫した。

＜单元名＞ 根拠を明確にして鑑賞文を書こう。(第1学年)					
◎単元の目標 ・ 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書く言語活動を通して、伝えたい事柄について、自分の考えを、根拠を明確にして書くことができる。					
月	題材	指導目標	主な学習活動	時数	各教科等の言語活動との関連
12	文章名人3 根拠を明確にして書くには	①伝えたい事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く態度を養う。	○根拠を明確にして書くことについて、P168、169を読んで理解する	4	【美術】 「青い衣の少女」 【音楽】 「オーケストラの豊かな響きを味わおう」

＜各教科等の言語活動との関連を明確にした国語科の年間指導計画（第1学年抜粋）＞

### Ⅳ 仮説に基づく実践例②～第2学年における「B 書くこと」領域の実践

#### 1. 全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた生徒の実態把握

本校の第2学年においては、書くことを苦手と感じている生徒が多く見られることから、平成25年度全国学力・学習状況調査の「B 主として『活用』に関する問題」<sup>2)</sup>を活用して「書くこと」領域の生徒の実態を把握した。結果は下記のとおりである。(設問及び【解答類型】については3)を引用)

1)の三(課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかどうかをみる問題)の正答率		66.4%
主な誤答の状況	【解答類型4】本文を読んで分かったことと、そこから興味や関心を広げ、更に調べたいことがかみ合わない。	16.4%
2)の三(文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題)の正答率		76.7%

主な誤答 の状況	【解答類型 4】 引用部分をかぎかっこ（「 」）でくくって文章を書くという条件を満たしていない。	9.5%
	【解答類型 3】 引用した部分が自分の考えの根拠となっていない。	6.5%
③の三（漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる問題） の正答率		76.7%
主な誤答 の状況	【解答類型 3】 二つの漢字を学習する際の注意点やコツを具体的に書いていない。	7.8%
	【解答類型 4】 選んだ〈間違えやすい漢字の例〉について、二つの漢字の共通点や相違点など漢字の特徴を適切に取り上げて書いていない。	7.8%

これらの結果のうち、②の三の【解答類型 3】や③の三の【解答類型 3】及び【解答類型 4】から、第2学年の「書くこと」領域においては、「全国学力・学習状況調査4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ」の指摘にもあるように、「文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くこと」④の数値が若干下がっている状況が見られた。また、①の三の【解答類型 4】についてさらに分析した結果、適切な言葉を用いて説明することに課題がある解答が見られた。②の三の【解答類型 4】については、設問をよく読んでいないと思われる解答が見られた。

このような結果から、根拠を明確にして自分の考えを述べる際には、具体的な根拠をあげるとともに引用した内容が自分の考えの根拠として妥当であるかどうかを考える学習活動を工夫する必要がある。また、指導方法の工夫・改善の他に、設問の意図をきちんとおさえ、解答する習慣を身に付けさせることも大切であると考えられる。

## 2. 1を踏まえた指導方法等の工夫・改善～「社会生活に必要な手紙を書こう。」の実践

<単元名> 社会生活に必要な手紙を書こう。

### ◎単元の目標

- ・相手や目的に合わせた手紙の書き方や形式を理解し、自分の気持ちや思いが伝わる手紙を書くことができる。(指導事項イ・ウ、言語活動例ウ)

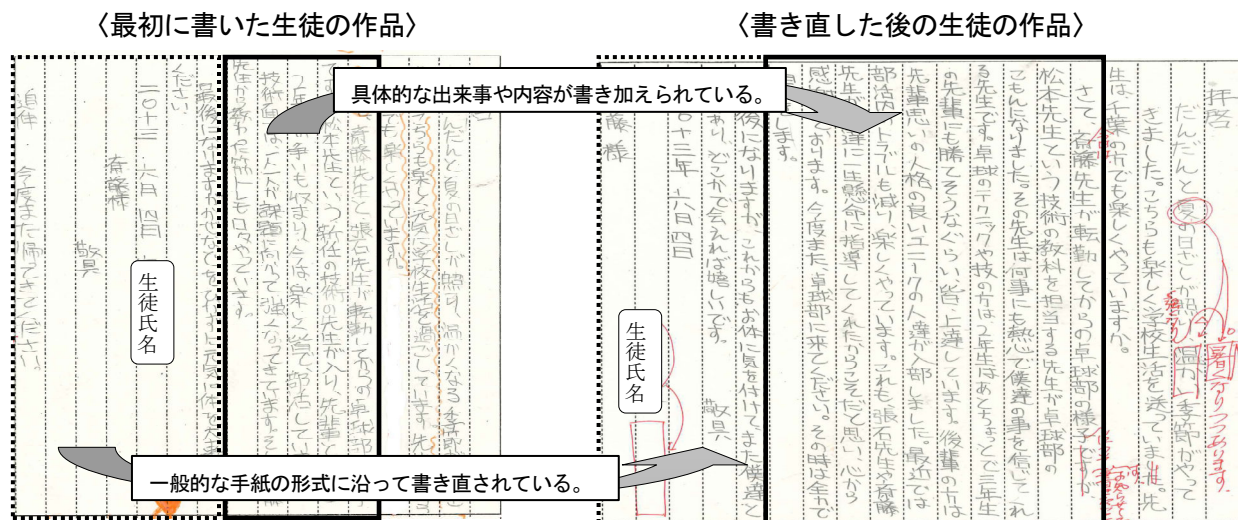
月	題材	指導目標	主な学習活動	時数	各教科等の言語活動との関連
6	感謝の気持ちを形にするには	①手紙の形式を整えて、相手に自分の気持ちが伝わるように手紙を書こうとする態度を養う。	○教科書や資料集を使って、手紙の形式を理解する。	2	【総合的な学習の時間】 CL学習～職場訪問先へ依頼の手紙を書く活動
		②エピソード等、具体的な出来事や内容を書くことで、自分の気持ちや思いが伝わるように工夫するとともに、一般的な形式に沿って手紙を書かせる。	○自分の気持ちや思いが伝わるように工夫するとともに、相手にふさわしい言葉を選び、一般的な形式に沿った手紙を書く。		
		③書いた手紙を読んで、手紙の構成や感謝の気持ちの伝え方など読み返しをさせる。	○書いた手紙を読み返し、表現の工夫や気持ちの伝え方などを考える。	1	

<「社会生活に必要な手紙を書こう。」の単元指導計画（年間指導計画からの抜粋）>

本単元は、前項1で明らかとなった課題のうち、具体的な根拠をあげて説明する力を身に付けさせることに重点をおいた実践である。

学習の最初に、本単元での学習が、2学期の総合的な学習の時間で取り組むCL学習（職場訪問）の依頼状の作成につながっていることを説明し、他教科等との関連を意識付けた。次に、一般的な手紙の書き方について全体で確認した。さらに、「印象に残ったエピソードや体験したことを具体的に書くこと」「エピソードや体験を通して感じたり考えたりしたことを明確にすること」に注意させながら、感謝の気持ちを伝える手紙を書く学習活動を行った。学習の後半では、生徒が書いた作品の中から、具体的な出来事や内容があることで気持ちや思いが効果的に伝わる手紙を紹介するとともに、その手紙と自分が書いた手紙を比較しながら、自分の手紙をよりよく書き直す学習活動を行った。

下記の生徒は、前項1で適切な言葉を用いて説明することに課題が見られた生徒である。最初に書いた手紙と書き直した手紙を比較すると、一般的な手紙の形式を理解する（点線囲み）とともに具体的な出来事や内容を書き加えて（傍線囲み）、自分の手紙を書き直すことができている。また、学習後の生徒の振り返りでは、「学習を通して身に付けた一般的な手紙の書き方を、実際に手紙を書く時に活用したい。」という感想を書いており、国語で身に付けた力を日常生活で生かそうとする意識の高まりが見られた。



<他者の手紙を参考に自分の手紙を書き直した生徒の記述例>

### 3. 授業観察等による国語科で身に付けた言語能力の習得・活用状況の把握

前項2の実践後、国語科で身に付けた言語能力の習得・活用状況を把握するため、理科の授業観察を試みたが、生徒の状況を把握しきれなかったため、生徒の定期テストの中の思考力・判断力・表現力を見取る問題における生徒の記述を分析した。

理科の定期テストの中の思考力・判断力・表現力を見取る問題（質量保存の法則を、何か身近なものを例えにを使ってわかりやすく説明しなさい。）の正答率		47.9%
誤答の状況	・【解答類型1】理科の能力は十分ではないが、具体的な例をあげて説明している。	17.9%
	・【解答類型2】具体的な例をあげて説明していない。	9.4%
	・【解答類型3】理科の能力が十分ではなく、かつ、具体的な例をあげて説明していない。	5.1%
	・【解答類型4】無回答	19.7%

この理科の問題の正答率は47.9%であり、下記のような解答が見られた。

- ・水に氷を入れた時の質量とその氷が溶けた時の質量が同じになるように、何かしらの変化があっても物質の質量は変わらないということ。
- ・水と砂糖を混ぜて砂糖水をつくるとする。砂糖と水を混ぜ合わせたとしても、砂糖+水の質量とできた砂糖水の質量は変わらない。このように、物質どうしを混ぜたりしても質量は変わらないことを質量保存の法則という。

正答と【解答類型1】を合わせた65.8%（【解答類型4】無回答を除いた解答の81.9%）の生徒が具体的な例をあげて説明しており、他教科においても第2学年の「書くこと」領域の指導事項ウの「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加え」て書いている状況が明らかとなった。一方、【解答類型1】の中には、「何か身近なものを例えに使う」という設問の条件を満たしていない解答や具体的な例はあるものの記述が不十分な解答が見られた。

このような結果から、引用した内容が自分の考えの根拠として妥当であるかどうかを考えることに重点をおいた学習活動をより一層工夫する必要がある。

#### 4. 3を踏まえた指導方法等の工夫・改善

<単元名>立場を決めて意見を述べるには—根拠を明確にした意見文—

##### ◎単元の目標

- ・多様な考えができる事柄について、立場を決め、自分の意見が相手に効果的に伝わるように工夫した意見文を書くことができる。(指導事項ウ・オ、言語活動例イ)

月	題材	指導目標	主な学習活動	時数	各教科等の言語活動との関連
7	立場を決めて意見を述べるには	①教科書の四コマ漫画を読み、自分の意見をもつためのマッピングを作成させる。	○教科書の四コマ漫画を読み、自分の意見をもつためのマッピングを作成する。	1	【総合的な学習の時間】 「国際理解」についての意見文の作成
		②意見を支えるための具体的な根拠や文章の構成を考えさせる。	○自分の立場や意見、根拠を明確にするとともに、構成メモを作成する。		
		③自分の立場や意見が相手に効果的に伝わる文章を書かせる。	○自分の立場を決めて意見を述べる文章を書く。	1	
		④書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や根拠の妥当性などについて評価させる。	○書いた文章を互いに読み合い、自分の意見が相手に明確に伝わっているかを確認するとともに、工夫点や改善点などについて交流する。	1	
		⑤他者の意見や助言を自分の表現に役立てさせる。	○他者の意見や助言を参考に書いた文章を直す。	1	

<「立場を決めて意見を述べるには」の単元指導計画（年間指導計画からの抜粋）>



本単元は、前項2の課題を踏まえ、引用した内容が自分の考えの根拠として妥当であるかどうかを考えることに重点をおいた実践である。

1, 2時間目は、教科書の四コマ漫画から読み取った内容をもとに自分の立場や意見を決め、根拠を明確にした意見文を書く学習活動を行った。3時間目では、下記のように、作成した意見文を互いに読んで評価し合うとともに自分の改善点を明確にする学習活動を行った。

<p>【本時の学習を振り返って】立場を決めて意見を述べるために大切なこと】 自分の思いがいて、それを根拠つけて具体例を出して、四角後には水に流してできた結論をかくこと。そして、具体例をかく時に、それに事実をつかると、より説得力のある意見文になることだった。</p>	<p>2 ① 他者の文章のよい点やアドバイス等を参考にして、最初に書いた文章をどのように書き直したらよいか考えよう。</p> <p>根拠の部分の、20才未満の人でもすごいことさしているの、すごいことを明確にしたり、40、50才でも感情にまかせて行動してしまっているの、感情にまかせた行動(人を殺してしまおうなど)を明確にして事実をもちとどりにいれる。</p>	<p>項目</p> <p>① 自分の立場や意見が明確か。 [0]</p> <p>② 根拠は妥当か。 [0]</p> <p>③ 説得力のある文章構成になっているか。 [0]</p>	<p>根拠</p> <p>後半に自分の意見が書いてあり、良かったと思います。</p>	<p>立場・意見</p> <p>20才未満の人でもすごいことをしている人もいるが、40、50才で感情にまかせて行動している人もいます。</p>	<p>項目</p> <p>① 自分の立場や意見が明確か。 [0]</p> <p>② 根拠は妥当か。 [0]</p> <p>③ 説得力のある文章構成になっているか。 [0]</p>	<p>批評者氏名 ( )</p> <p>大人と子どもの区別は二十歳では決まらなければ、大人が新成人を子ども扱いするのは自分の考えを察知を人にわけてあげただけ。</p>	<p>批評者氏名 ( )</p> <p>大人と子どもの区別は二十歳では決まらなければ、大人が新成人を子ども扱いするのは自分の考えを察知を人にわけてあげただけ。</p>	<p>1 交流カード</p> <p>◎ 書いた文章を互いに読み、文章の構成や根拠の妥当性などについて評価し合おう。</p> <p>立場を決めて意見を述べるには — 根拠を明確にした意見文 —</p> <p>B組 ↑ 番 氏名</p>
		<p>評価項目</p> <p>① 説得力のある文章構成になっているか。 [0]</p> <p>② 根拠は妥当か。 [0]</p> <p>③ 説得力のある文章構成になっているか。 [0]</p>	<p>根拠</p> <p>読者に問いかけながら根拠を書いていて良かったと思います。</p>	<p>立場・意見</p> <p>成人式も十九歳でむかえる人もいます。ことをしている人もいますし、四十五歳でも感情にまかせて行動してしまっている人もいます。</p>	<p>項目</p> <p>① 自分の立場や意見が明確か。 [0]</p> <p>② 根拠は妥当か。 [0]</p> <p>③ 説得力のある文章構成になっているか。 [0]</p>	<p>批評者氏名 ( )</p> <p>事実と意見の区別をわけてわかんない。</p>	<p>批評者氏名 ( )</p> <p>事実と意見の区別をわけてわかんない。</p>	

他者と自分の文章を読み比べたり評価のコメント等を参考にしたりすることで、自分の意見文の改善点が明確になりました。

複数の生徒の要約を比較することで、自分の意見等が相手に明確に伝わっているかどうかを確認できるようにした。

＜作成した意見文に対する評価及びそれを参考に自分の改善点を明確にした生徒の記述例＞

ここでは、「自分の立場や意見が明確か。」「根拠は妥当か。」「説得力のある文章構成になっているか。」の3点に焦点を絞って学習したことにより、説得力のある文章構成で、自分の立場や意見、根拠を明確にした意見文を書く力を定着させることができた。また、根拠の妥当性という観点で文章を見直すことの大切さにも気付かせることができた。さらに、本単元後、総合的な学習の時間で「国際理解」について意見文を書く学習活動では、国語で学習したことを活用して文章を作成する生徒の姿が見られた。

### 5. 全国学力・学習状況調査の「主として『活用』に関する問題」を参考に作成したペーパーテストによる評価方法の工夫・改善

前項2で学習したことが生徒に定着したかどうかを検証するため、平成19年度全国学力・学習状況調査の「A 主として『知識』に関する問題」の2を参考とした次頁のペーパーテストを実施した。

設問「一」は、指導事項ウの「事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加え」て書くことができるかどうか、設問「二」及び「三」は、言語活動例ウに基づき、一般的な手紙の形式について理解しているかどうかを見取る問題となっている。さらに設問「三」については、間違っている

箇所を具体的に説明することで生徒の思考力・判断力・表現力を見取することをねらいとしており、これまでの全国学力学習状況調査の「主として『活用』に関する問題」の設問の形式を参考とした。

<p>三 手紙の書式で間違っている箇所を具体的に説明しなさい。</p>	<p>二 (B) に入る言葉を漢字で書きなさい。(ひらがなの解答は不可)</p>	<p>一 古谷さんへの感謝の気持ちを具体的に伝えるために、 はどのようなことを書くかよいですか。箇条書きで二つ書きなさい。 A</p>	<p>四 次の手紙は、加藤くんが、職場体験学習でお世話になった古谷さん(パティシエ)に宛てて書いた礼状です。手紙を読んで後の問いに答えなさい。【書く能力】</p> <p>拝啓 太陽の日差しが徐々に強くなり、夏が近づくのを感じる今日この頃、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。</p> <p>さて、先日は突然のお願いにもかかわらず、職場体験学習に御協力していただき、ありがとうございます。</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>古谷さんも、これからお体に気を付けてすきなおかしを作り、わたしたちを楽しませてください。このたびは誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">(B)</p> <p>六月二十日</p> <p>加藤隆二</p> <p style="text-align: right;">古谷 克也様</p>
-------------------------------------	--	---	--

＜全国学力・学習状況調査を参考に作成したペーパーテスト＞

テストの結果、各設問の正答率はほぼ8割で、学習したことがおおむね身に付いている状況が見られた。また、不正解だった生徒においても、テストを基に学習したことを振り返ることで、一般的な手紙の書き方について理解を深めることができた。

一方、生徒の思考力・判断力・表現力の状況を的確に把握するためには、問題の工夫・改善がより一層必要であるという課題が明らかとなった。設問「三」は、間違っている箇所を説明する記述式の問題だが、これだけでは、一般的な手紙の形式という知識の定着の状況しか把握することができない。生徒の思考力・判断力を把握するためには、間違っている箇所を具体的に挙げた上で、なぜふさわしくないのかといった理由を明確にして説明させる必要がある。

#### IV 仮説の検証

仮説の検証として、実践の前後に「国語科および各教科等における言語活動についての生徒の意識調査」を行い、中学校学習指導要領の国語の言語活動例に基づいた23の言語活動について、生徒の意識の変容を見取った。

その結果、前項Ⅲの2で実践した「手紙を書くこと」については、「国語で学習したことがある」と回答した生徒の割合が57.6%から91.3%に増加していた。また、「国語で学習したことが、国語以外の教科等で役立っている」と回答した生徒の割合も46.1%から55.0%に増加していた。前項Ⅲの4で実践した「立場を決めて意見を述べ合う文章を書くこと」についても、「国語で学習したことがある」と回答した生徒の割合が59.3%から74.8%、「国語で学習したことが、国語以外の教科等で役立っている」と回答した生徒の割合が46.1%から73.3%と増加していた。

このような結果から、全国学力・学習状況調査問題を活用するとともに、各教科の授業観察等を通して把握

した生徒の実態を踏まえて、指導方法の工夫・改善を行ったことにより、生徒に国語以外の教科等にも役立つ言語能力を身に付けさせることができたと考える。

## V 成果と課題

### 1. 成果

- 国語科で身に付けた言語能力を各教科等の言語活動に活用できるよう教育課程を工夫したことにより、国語で学習したことを各教科等で役立てる生徒の姿が見られるようになった。
- 全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた指導方法等の工夫・改善を行ったことにより、一人一人の生徒により適切な支援を行うことができた。
- 各教科等において、国語科で身に付けた言語能力の習得・活用状況を把握・分析したことにより、指導方法等の工夫・改善に生かすことができた。

### 2. 課題

- 社会生活に生きて働く言語能力を高めるためには、実用的で生徒が役立つと実感できる言語活動を一層工夫する必要がある。
- 生徒の思考力・判断力・表現力を高めるためには、全国学力・学習状況調査を通して把握できる生徒の実態と学習指導要領との関連をさらに分析し、生徒に身に付けさせる力をより明確にするとともに、それらを確実に身に付けることができる指導を工夫する必要がある。

〈引用文献〉

- 1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説 国語編』（2008）9頁
- 2) 文部科学省（2013）『平成25年度全国学力・学習状況調査「B 主として『活用』に関する問題」』
- 3) 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2013）『平成25年度全国学力・学習状況調査解説資料』
- 4) 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2013）『全国学力・学習状況調査4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ』6頁

〈参考文献〉

- ・ 文部科学省（2013）『平成25年度全国学力・学習状況調査「B 主として『活用』に関する問題」』
- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2012）『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校 国語) 』

（文責 長谷川 美栄子）